

令和元年度都筑区区民意識調査 調査結果がまとまりました

都筑区役所では、区民の生活意識と生活行動を把握し、区政運営に活かすことを目的に、区民意識調査を実施し、調査結果がまとまりましたのでお知らせします。（前回は、平成 27 年度に実施しました。）

今年度の調査では、居留意向などの基礎データのほか、前回から継続して「災害対策」、「自治会町内会活動」、「地域での支え合い」、「子ども・子育て支援」等について伺いました。また、新たに区民意識を把握したい、「地域の福祉保健活動」等の調査項目を追加しました。

結果の概要は、別紙「令和元年度都筑区区民意識調査結果概要」をご覧ください。

◆調査の概要◆

調査対象： 都筑区内に在住する満 18 歳以上の方（外国人市民を含む無作為抽出）3,000 人
調査方法： 郵送調査（郵送で調査票を送付し、郵送で回収）
調査期間： 令和元年 5 月 20 日～6 月 17 日
設問数： 26 問
回収結果： 1,496 票（回収率 49.9%） ※前回（平成 27 年度）回収率：51.9%

○調査結果のポイント

・都筑区に「住み続けたい」と回答している人は8割超

居留意向については「ずっと住み続けたい」が 49.9%と最も高く、次いで「当分は住み続けたい」が 33.7%となっており、それら 2 つを合わせると「住み続けたい」と答えた人は 83.6%（対前回調査 +0.8）にのびります。

・都筑区の生活環境の満足度トップは「電車の利便」

生活環境において満足度が最も高かったものは「電車の利便」で、次いで「公園（緑道を含む）の整備」、「街並み景観の整備」となっています。

・ご近所に手伝ってほしいことは、「災害時の避難の手助け」が最多

ご近所に手伝ってほしいことは「災害時の避難の手助け」が 31.9%と最も高い。また、地域の中で充実させていくべき社会貢献活動で回答が多かったものは「高齢者支援」や「防災・防犯など」でした。

調査結果の詳細は、調査報告書または区ホームページをご覧ください

都筑区区民意識調査

検索

<https://www.city.yokohama.lg.jp/tsuzuki/kusei/tokei/ishiki/r01ishikicross.html>

※調査報告書は、区ホームページに全文掲載するほか、都筑区役所や都筑図書館、区内地区センターでご覧いただけます。（都筑図書館、地区センターは 12 月 23 日以降配架）

※クロス集計のオープンデータは、準備ができ次第、区ホームページで公表します。

お問合せ先

都筑区区政推進課長

佐藤 匡広

Tel 045-948-2220

令和元年度 都筑区区民意識調査 結果概要

都筑区役所では、区民の生活意識と生活行動を把握し、区政運営に活かすことを目的に、区民意識調査を実施しました。（前回は、平成 27 年度に実施しました。）

今年度の調査では、居留意向などの基礎データのほか、前回から継続して「災害対策」、「自治会町内会活動」、「地域での支え合い」、「子ども・子育て支援」等について伺いました。また、新たに区民意識を把握したい、「地域の福祉保健活動」等の調査項目を追加しました。

○調査結果のポイント

- ・都筑区に「住み続けたい」と回答している人は 8 割超
- ・都筑区的生活環境の満足度のトップは「電車の利便」
- ・ご近所に手伝ってほしいことは、「災害時の避難の手助け」が最多

● 調査概要

■調査対象：都筑区内に在住する満 18 歳以上の方（外国人市民を含む無作為抽出）3,000 人

■調査方法：郵送調査（郵送で調査票を送付し、郵送で回収）

■調査期間：令和元年 5 月 20 日～6 月 17 日 ■設問数：26 問

■回収結果：1,496 票（回収率 49.9%） ※前回（平成 27 年度）回収率：51.9%

1 都筑区に対する居留意向（報告書 P14）

①居住開始時期

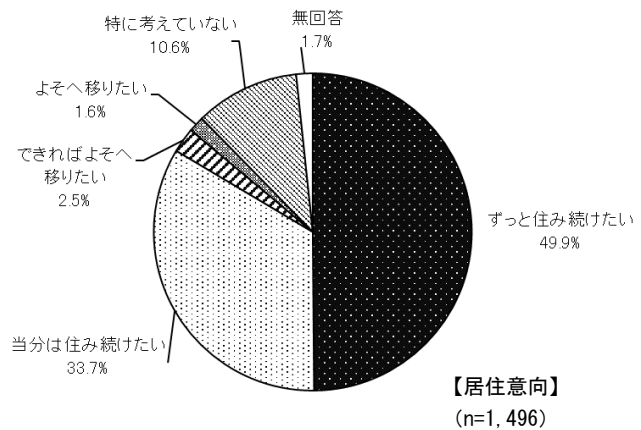
平成 7 年以降に住み始めた人が全体の約 6 割を超える。「平成 7～平成 11 年（1995～1999 年）」に都筑区に住み始めた人の割合が最も高い（15.6%）。

②都筑区に来る前の居住地

「市内（都筑区以外の横浜市）」が 35.6%と最も高い。

③居留意向

「ずっと住み続けたい」と「当分は住み続けたい」を合わせると 8 割以上の人が『住み続けたい』と回答している。



2 通勤・通学の状況（報告書 P23）

①職場・学校の所在地

東京都内へ通勤・通学が、全体の 3 割弱（27.6%）。「自宅」、「自宅周辺の町内」を含めた『都筑区内』への通勤・通学は全体で 31.2%。

②通勤・通学にかかる時間

通勤・通学にかかる時間は「45 分～1 時間未満」が最多で 17.9%。男性の最多は「45 分～1 時間未満」で 20.6%、女性の最多は「15 分～30 分未満」で 21.4%。

3 都筑区の生活環境に関する重要度・満足度・変化度（報告書 P31）

①生活環境の重要度（回答者が重要と感じているもの）

	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位
上位 5 項目	電車の利便	病院やかかりつけ医などの地域医療	防犯に対する意識や取組	歩行者のための道路環境の整備	災害に対する意識や取組

②生活環境の満足度

	1位	2位	3位	4位	5位
上位 5項目	電車の利便	公園（緑道を含む） の整備	街並み景観の整備	ごみの分別収 集・リサイクル や街の美化	車利用のための道路 環境の整備

③生活環境の変化度（回答者がここ数年で良くなったと感じているもの）

	1位	2位	3位	4位	5位
上位 5項目	電車の利便	駅周辺等の放置自転 車対策	駅舎のバリアフリ ーなど、誰もが移 動しやすいまちづ くり	最寄り駅周辺 のまちづくり	公園（緑道を含む） の整備

4 災害対策(報告書 P46)

①災害対策について

「携帯ラジオ、懐中電灯など非常持ち出し品の準備」が61.0%と最も高く、次いで「近くの学校や公園などの避難場所の確認」が55.9%、「3日以上以上の食糧や飲料水の準備」が48.9%となっている。

②避難先の認知度

地域防災拠点の認知度は「知っているし、場所もわかる」が64.8%と最も高い。自治会・町内会加入の有無別にみると、「知っているし、場所もわかる」は加入者72.1%、未加入者55.9%で加入者の方が高い。

③防災情報収集手段の認知度

「Yahoo!防災速報アプリ」が37.7%と最も高く、次いで「市や区のホームページ」が35.3%、「横浜市防災情報Eメール」が20.2%となっている。

5 自治会・町内会活動(報告書 P55)

①自治会・町内会への加入状況

自治会・町内会への加入状況は加入者が64.1%。居住開始時期別で見ると、住み始めた時期が遅いほど加入率は減少する傾向となっている。

②自治会町内会活動に期待する取組

「災害時や日ごろの支え合い」及び「防犯活動」が50.5%と最も高く、次いで「防災活動」が45.1%、「子どもの見守り・子育て支援」が41.3%となっている。

6 地域での日頃の支え合い(報告書 P60)

①隣近所に住んでいる人を知っているか

「よく知っている」と「だいたい知っている」を合わせた『知っている』は61.4%で、自治会・町内会加入の有無別にみると、『知っている』は加入者が75.3%で未加入者が38.5%で加入者の方が高い。

②日ごろの近所づきあいの程度

「お互い困ったときには助け合っている」の割合は9.3%、「お互いに訪問しあっている」の割合は2.3%で、前回調査と比べると共にやや減少している。年代別にみると年代が下がるほど、「あいさつをする程度」や「ほとんど付き合いはない」の割合が高まり、近所づきあいの程度が低くなる傾向がある。

7 区内における社会貢献活動(報告書 P69)

①過去1年間の区内における社会貢献活動の経験

経験がある人は27.2%。同居有無別にみると「小学生がいる」や「高齢者（65歳以上）がいる」人の方が社会貢献活動の経験の割合が高い。

②地域の中で充実させていくべき、重要度が高いと考える社会貢献活動

「高齢者支援に関する活動」が45.3%と最も高く、次いで「防災・災害救援に関する活動」が42.3%、「防犯・安全に関する活動」が40.5%となっている。

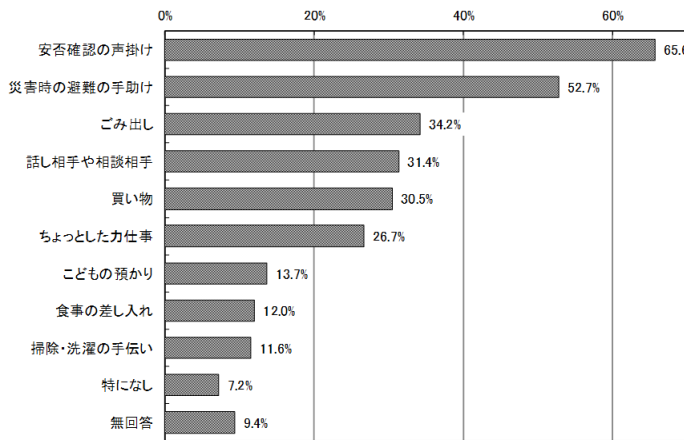
8 地域の福祉保健活動(報告書 P81)

①近所の方に手伝いできること

「安否確認の声掛け」と「災害時の避難の手助け」が5割を超えている。

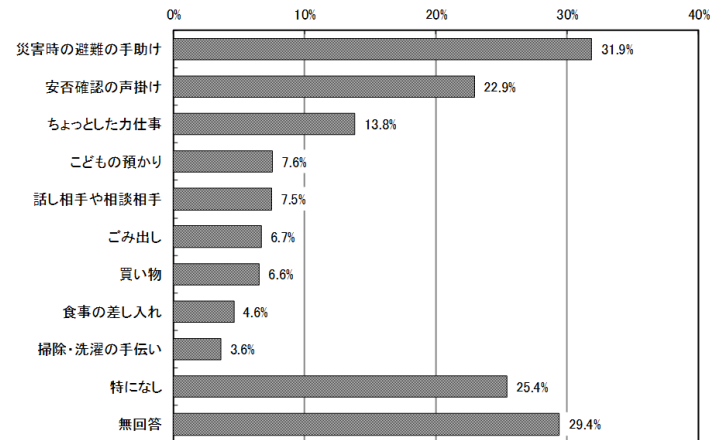
②近所の方に手伝ってほしいこと

「災害時の避難の手助け」が最も高く、3割を超えている。「安否確認の声掛け」は2割超。



【近所の方に手伝いできること】

(n=1,496)



【近所の方に手伝ってほしいこと】

(n=1,496)

9 子ども・子育て支援(報告書 P83)

①子育て経験の有無

「経験がある」「現在子育て中(18歳未満の子)」と合わせて7割超。

②安心して子育てを行うために必要な施策

「保育サービスの充実」が55.3%と最も高く、次いで「子育てと仕事の両立のための職場環境づくり」が38.1%、「子育てに関する相談窓口の充実」が30.7%。

10 健康づくり(報告書 P89)

①健康づくりの取り組みで重要だと思うこと、実際に取り組んでいること

重要だと思うこと、実際に取り組んでいることはともに「日常生活の中で歩くなど意識して体を動かす」が最多(60.2%・64.8%)。

②健康づくりに必要な施策

「健康づくりに関するイベントや講座の開催」が最も高く4割超。次いで、「HPやアプリなどによる健康づくりに関する情報の集約・提供」が3割超となっている。

11 高齢者支援(報告書 P94)

①高齢者の生活で特に不安なこと

「介護が必要な状態になること」(76.3%)、「健康や病気のこと」(71.9%)、「生活費や収入のこと」(59.1%)の割合が高い。

②高齢者人口の増加に対する支援や取組

「ひとり暮らし、高齢者のみの世帯になった時の訪問等の見守り」が最も高く47.7%。

12 「普段の買い物」や「たまにする買い物」(報告書 P100)

①買い物先

普段の買い物では「スーパーマーケット」が一番高く72.2%。たまにする買い物では「百貨店・大型ショッピングセンター」が一番高く63.4%。

②買い物に行くときの交通手段

「普段の買い物」は「徒歩」、「たまにする買い物」は「自家用車」が最も高い。

13 文化活動(報告書 P105)

①日頃行っている文化活動・鑑賞

「映画」が最も高く4割超、次いで「音楽」が3割超。

②文化活動を行っている場所

「映画館」が5割超で最も高く、次いで「個人宅」が3割弱。

14 区民利用施設(報告書 P114)

①区民利用施設の認知度と利用状況

「都筑図書館」は「利用したことがある」人の割合が6割超で最も高い。性別で見ると区民利用施設は男性より女性の方が「利用したことがある」人の割合が高い傾向がある。

(参考1 回答者の属性)

①性別

	今回調査	前回調査 (H27)
男性	43.7%	44.0%
女性	53.1%	53.8%
無回答	3.1%	2.2%

③家族形態

	今回調査	前回調査 (H27)
ひとり暮らし	6.6%	8.0%
夫婦だけ	25.3%	23.5%
親と子	59.8%	59.4%
親と子と孫	5.1%	5.2%
その他	1.5%	2.4%
無回答	2.4%	1.5%

②年齢

	今回調査	前回調査 (H27)
10歳代	2.3%	—
20歳代	7.2%	7.6%
30歳代	12.1%	14.6%
40歳代	21.1%	26.5%
50歳代	21.4%	18.4%
60歳代	15.2%	15.9%
70歳代	18.4%	15.1%
無回答	2.4%	1.9%

④就労状況

	今回調査	前回調査 (H27)
正社員・正職員(公務員・団体職員含む)	32.1%	34.6%
自営業(商店経営、農業、開業医など)	6.4%	6.6%
契約社員・嘱託社員・派遣社員	5.8%	6.0%
パート・アルバイト	16.4%	15.3%
専業主婦・専業主夫	15.8%	18.2%
学生	4.1%	1.8%
就業していない	15.0%	13.1%
その他	1.9%	2.1%
無回答	2.4%	2.3%

(参考2 調査分析に用いた地区割)

地区名	地区連合町内会名		
東部地区	東山田連合町内会	山田連合町内会	
北部地区	中川連合町内会		
中部地区	勝田茅ヶ崎地区連合町内会	かちだ連合自治会	新栄早瀬連合町内会
	茅ヶ崎南 MGCRS連合自治会		
南部地区	都田連合町内会	池辺町連合自治会	佐江戸加賀原地区連合自治会
西部地区	川和地区連合町内会	ふれあいの丘連合自治会	柚木荏田南連合自治会
	荏田南連合自治会	渋沢連合自治会	

※自治会・町内会未加入の地域については、地理的な条件や地域特性を考慮し、近接する地区連合町内会に組み入れることとした
 ※地区の名称は、各地区の位置関係を考慮してつけた名称であり、本調査の集計上用いるものである。一般に用いられる名称ではない

横浜市都筑区区政推進課企画調整係 電話 045-948-2227 FAX045-948-2399

調査報告書の全文は、都筑区役所ホームページでご覧いただけます

<https://www.city.yokohama.lg.jp/tsuzuki/kusei/tokei/ishiki/r01ishikicross.html>